

令和8年



多気営農センターより



今月は、稲刈り、果樹の仕上げ摘果、また秋冬野菜の播種等の時期になってきます。気温が高く、日差しも強い炎天下での作業になるので、体調の管理にも気を配り無理の無いよう作業に努めてください。

水稻

今年は、梅雨時期に雨が多かったですが、梅雨明け後は非常に気温が高く推移しました。稲の生育は平年並みで、早い圃場では7月前半に出穂が見られました。



収穫前の落水は土壌条件にもよりますが、一般水田では収穫7日前が落水時期の目安です。落水が早いと未熟粒・胴割粒の発生を助長します。落水後も田面が乾くようなら走水をおこない登熟を促しましょう。今後も高温が続く予想のためできるだけ遅らせ登熟障害を受けないように気をつけてください。

収穫時期の目安

コシヒカリの場合、4月下旬田植えで出穂期後33～35日で、穂の基部に緑色もみが3～4粒程度残る頃が、収穫適期です。



例年より早くなるところもあると思われるので刈り遅れには注意しましょう。

収穫・乾燥調整の留意点

- 胴割米防止 ⇒ 早期落水・刈り遅れ・高温急速乾燥は厳禁！
- やけ米防止 ⇒ 収穫後4時間以内に乾燥機へ投入
- 適正水分 ⇒ 乾燥調整は14.5～15.0%
- 早刈り厳禁 ⇒ 青米・小米が多くなり等級の低下・収量が減少します
- 乾燥調整 ⇒ 乾燥速度は1時間に0.8%以下の乾燥
米選機のふるい目は1.85mm以上で、粒数は少なめ



令和8産米出荷（地場）

出荷契約書の提出をいただいている方に、令和8年産米概算金が決定しだい、米概算金のお知らせ文書と令和8年産米集荷案内文書を配布させていただきます。

果樹

今年の果樹カメムシ類の発生は平年比『多』となっております。しかしながら、収穫期が近づくにつれて、増加していくことが予想されます。吸汁被害により品質低下の原因となります。必要に応じ基幹防除に加え、追加防除を実施して下さい。過去に飛来が多かった圃場は特に注意していただき、近隣圃場と散布日を合わせるなど、広域で一斉防除すると効果が高くなります。

かき

8月中旬防除

うどんこ病・炭疽病等	ベルコート水和剤	1,500倍
カメムシ・アザミウマ・カイガラムシ	モスピラン顆粒水溶剤	3,000倍

↓カメムシ追加防除↓

ダントツ水溶剤	3,000倍	使用回数3回まで	収穫7日前まで
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	使用回数3回まで	収穫前日まで

※一部登録内容抜粋のため、使用时には確認をお願いします。

みかん

8月中下旬（果実肥大期）

黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍
ミカンハダニ類	コロマイト水和剤	2,000倍

台風対策(露地野菜編)

これからの時期は台風が襲来しやすくなります。事前に下記の対策をしておくことで被害を軽減できますので、参考にしてください。

- 冠水や浸水の恐れがある圃場は、排水溝の雑草や土砂等を取除き水落部分を作っておく。
 - 播種直後のものやキャベツ等の苗床は、寒冷紗をベタがけして風で飛ばされないよう固定する。
 - 幼苗期のものは、土寄せ・土入れを行い株の揺れを防ぐ。
 - 果菜類は、支柱の補強をし、収穫が済んだ側枝や不要な枝や蔓を取除く。または、畝の上に倒し防風網や寒冷紗等で押さえ台風通過後に元に戻す。
- ☆ 台風通過後は、速やかに圃場排水を行い、ベタがけ資材等を除去し付着した泥等は洗い流し薬剤防除をする。
- ☆ 株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、全体を軽く中耕し土壌の通気性を良くする。
- ☆ 豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の肥料を追肥し、草勢の回復を図る為に薄めの液肥を葉面散布する。



肥料・農薬など栽培に関するお問い合わせは



多気営農センター39-6170 または各営農指導員携帯へご相談ください。